

米国農務省穀物等需給報告(2023 年 11 月9日発表のポイント)

令和5 年 11 月 10 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、11 月9日(現地時間)、2023/24 年度の7回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

ー2023/24 年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27 億 9,908 万トン(対前年度比 1.8%増)↑
- ② 消費量: 28 億 518 万トン(対前年度比 1.3%増)↑
- ③ 期末在庫量: 7億 6,723 万トン(対前年度比 0.8%減)↑
期末在庫率: 27.4%(対前年度差 0.6 ポイント減)↑

【主な品目別の動向】

小麦 :世界の生産量は、ロシアで単収及び収穫面積が引き上げられた一方、インド、アルゼンチン、カザフスタン等で生産量が引き下げられたこと等を受け前月から下方修正され、前年度より減少する見通し。世界の消費量は、前年度よりわずかに増加する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、米国の生産量及び輸出量は前月から変更はなかった。一方、ウクライナの輸出量は前月から上方修正された。

- 1 生産量: 7億 8,198 万トン(対前年度比 1.0%減)↓…インド、米国、アルゼンチン等で増加、豪州、カザフスタン、カナダ、ロシア等で減少(前月に比べロシアで上方修正、インドで下方修正)
 - 2 消費量: 7億 9,284 万トン(対前年度比 0.1%増)↓…中国等で増加(前月に比べロシアで上方修正)
 - 3 期末在庫量: 2億 5,869 万トン(対前年度比 4.0%減)↑…米国等で増加、中国、EU、ロシア等で減少(前月に比べロシアで上方修正、インドで下方修正)
- 期末在庫率: 32.6%(対前年度差 1.4 ポイント減)↑

とうもろこし:世界の生産量は、ウクライナ及びロシアで生産量が引き上げられたことに加え、米国で単収が引き上げられ生産量が史上最高となること等から、前月から上方修正され、前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。また、ウクライナの輸出量は前月から上方修正された。

- 1 生産量: 12 億 2,079 万トン(対前年度比 5.5%増)↑…米国、アルゼンチン、EU、ウクライナ等で増加、ブラジル等で減少(前月に比べ米国で上方修正)
 - 2 消費量: 12 億 503 万トン(対前年度比 3.2%増)↑…米国、中国、EU、ブラジル、アルゼンチン等で増加
 - 3 期末在庫量: 3億 1,499 万トン(対前年度比 5.3%増)↑…米国、ウクライナ等で増加、中国、ブラジル等で減少
- 期末在庫率: 26.1%(対前年度差 0.5 ポイント増)↑

コメ(精米):世界の生産量は、インドで減産も、パキスタン、中国等で増産となり、史上最高となる見通し。世界の消費量は、インドでコメの配給プログラムが継続することから上方修正され前年度より増加し、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回り、過去6年間で最低水準となる見通し。

- 1 生産量: 5億 1,780 万トン(対前年度比 0.9%増)↓…パキスタン、中国等で増加、インド等で減少
 - 2 消費量: 5億 2,516 万トン(対前年度比 0.7%増)↑…インド等で増加、中国等で減少
 - 3 期末在庫量: 1億 6,742 万トン(対前年度比 4.2%減)↓…インド、中国等で減少
- 期末在庫率: 31.9%(対前年度差 1.6 ポイント減)↓

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、ウクライナ及びロシアで生産量が引き上げられたことに加え、米国で単収が引上げられたことを受け、前年度より増加し、史上最高となる見通し。世界の消費量は、アルゼンチン、中国等で増加することから前年度より増加し、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 4億 42 万トン(対前年度比 7.6%増)↑…アルゼンチン、ブラジル等で増加、米国等で減少
 - 2 消費量: 3億 8,368 万トン(対前年度比 5.4%増)↑…アルゼンチン、中国、米国、ブラジル等で増加
 - 3 期末在庫量: 1 億 1,451 万トン(対前年度比 14.2%増)↓…アルゼンチン、ブラジル等で増加(前月に比べ中国で下方修正)
- 期末在庫率: 29.8%(対前年度差 2.3 ポイント増)↓

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年11月9日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目 \ 年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24			(参 考) 2012/13
			(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体						
生産量	2,797.13	2,749.97	2,799.08	1.8%	3.0	2,295.1
消費量	2,798.79	2,769.66	2,805.18	1.3%	5.7	2,284.6
期末在庫量	793.01	773.32	767.23	▲ 0.8%	3.4	481.4
期末在庫率	28.3%	27.9%	27.4%	▲ 0.6	0.1	21.1%
小麦						
生産量	781.01	789.49	781.98	▲ 1.0%	▲ 1.5	660.8
消費量	792.73	792.36	792.84	0.1%	▲ 0.0	680.3
期末在庫量	272.41	269.55	258.69	▲ 4.0%	0.6	181.8
期末在庫率	34.4%	34.0%	32.6%	▲ 1.4	0.1	26.7%
粗粒穀物						
生産量	1,501.77	1,447.12	1,499.31	3.6%	4.8	1,158.1
消費量	1,487.03	1,455.92	1,487.17	2.1%	4.1	1,139.2
期末在庫量	337.78	328.99	341.12	3.7%	2.9	175.0
期末在庫率	22.7%	22.6%	22.9%	0.3	0.1	15.4%
とうもろこし						
生産量	1,217.27	1,157.08	1,220.79	5.5%	6.3	898.8
消費量	1,199.90	1,168.20	1,205.03	3.2%	4.8	877.4
期末在庫量	310.34	299.22	314.99	5.3%	2.6	144.7
期末在庫率	25.9%	25.6%	26.1%	0.5	0.1	16.5%
コメ(精米)						
生産量	514.35	513.36	517.80	0.9%	▲ 0.3	476.3
消費量	519.03	521.39	525.16	0.7%	1.6	465.1
期末在庫量	182.82	174.78	167.42	▲ 4.2%	▲ 0.1	124.6
期末在庫率	35.2%	33.5%	31.9%	▲ 1.6	▲ 0.1	26.8%

【大豆】

項目 \ 年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24			(参 考) 2012/13
			(予想)	前年度比	前月差	
生産量	360.43	372.24	400.42	7.6%	0.9	269.0
消費量	363.97	364.15	383.68	5.4%	0.4	265.4
期末在庫量	98.06	100.31	114.51	14.2%	▲ 1.1	58.3
期末在庫率	26.9%	27.5%	29.8%	2.3	▲ 0.3	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 9, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2023年11月9日発表)

【穀物】 (単位：百万トン)

項目 \ 年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24			(参 考) 2012/13
			(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
全体						
生産量	448.60	408.09	456.55	11.9%	3.3	353.0
消費量	360.73	352.26	360.62	2.4%	1.5	317.1
輸出量	94.82	67.73	80.18	18.4%	0.6	51.6
期末在庫量	57.85	53.78	77.41	43.9%	1.4	44.2
期末在庫率	12.7%	12.8%	17.6%	4.8	0.2	12.0%
小麦						
生産量	44.80	44.90	49.31	9.8%	－	61.3
消費量	29.76	30.75	31.43	2.2%	▲ 0.1	37.8
輸出量	21.66	20.65	19.05	▲ 7.7%	－	27.5
期末在庫量	19.01	15.83	18.60	17.5%	0.4	19.5
期末在庫率	37.0%	30.8%	36.8%	6.0	0.8	29.9%
粗粒穀物						
生産量	397.71	358.10	400.26	11.8%	3.4	285.3
消費量	326.22	316.90	324.04	2.3%	1.7	275.5
輸出量	70.52	45.04	58.40	29.7%	0.6	20.7
期末在庫量	37.58	37.00	57.51	55.4%	1.1	23.5
期末在庫率	9.5%	10.2%	15.0%	4.8	0.2	7.9%
とうもろこし						
生産量	382.89	348.37	386.97	11.1%	4.3	273.2
消費量	317.09	307.55	314.72	2.3%	1.9	263.0
輸出量	62.80	42.20	52.71	24.9%	1.3	18.5
期末在庫量	34.98	34.58	54.75	58.3%	1.1	20.9
期末在庫率	9.2%	9.9%	14.9%	5.0	0.2	7.4%
コメ(精米)						
生産量	6.08	5.09	6.98	37.1%	▲ 0.0	6.3
消費量	4.76	4.62	5.14	11.3%	－	3.8
輸出量	2.65	2.04	2.73	33.8%	－	3.4
期末在庫量	1.26	0.96	1.30	35.4%	▲ 0.0	1.2
期末在庫率	17.0%	14.4%	16.5%	2.1	▲ 0.4	16.1%

【大豆】

項目 \ 年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24			(参 考) 2012/13
			(予想)	前年度比	前月差	
生産量	121.53	116.22	112.39	▲ 3.3%	0.7	82.8
消費量	62.92	62.84	66.06	5.1%	▲ 0.0	48.6
輸出量	58.57	54.21	47.76	▲ 11.9%	－	36.1
期末在庫量	7.47	7.30	6.68	▲ 8.5%	0.7	3.8
期末在庫率	6.1%	6.2%	5.9%	▲ 0.4	0.6	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 9, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

- 注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
- 2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
- 3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)
- 4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
- 5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
- 6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
- 7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向 (2023 年)

● 小 麦 : 5.73 ドル/bu (前年同時期の価格 : 8.48 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 11 月第 1 週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022 年 3 月 7 日))

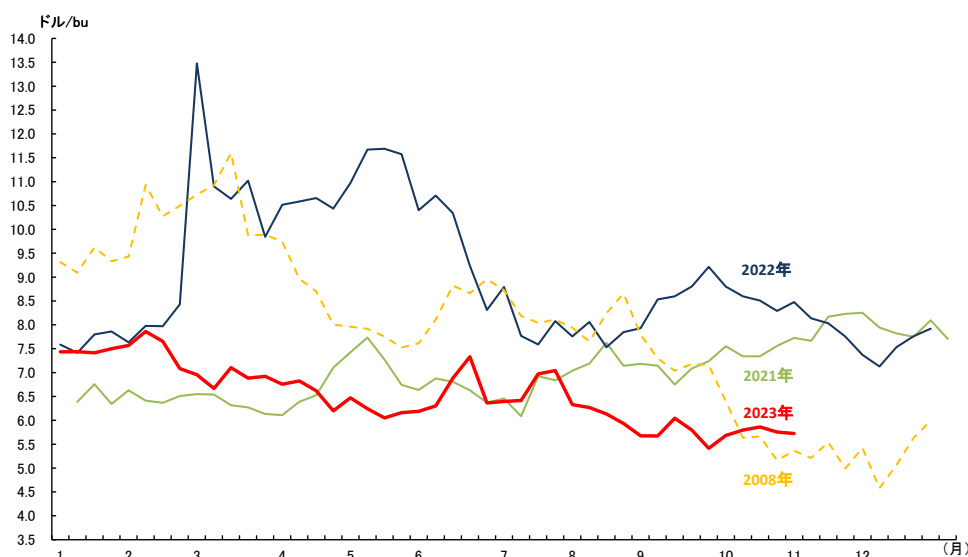
【1 月～6 月】

2 月上旬まで、ロシア、ウクライナ等からの供給増加等の一方、乾燥による米国産冬小麦の作柄悪化懸念から 7 ドル/bu 台前半から半ばで推移。2 月半ば以降、黒海経由のウクライナ産穀物輸出の先行き懸念等を受けながらも、米国産のロシア等黒海産との競合、乾燥天候の米国プレーンズでの降雨、米国産の低調な輸出等から値を下げ、3 月上旬には 6 ドル/bu 台半ばに低下した。3 月半ばから 4 月中旬にかけ、同合意の再延長を巡り上下しながら、輸出需要が低調であったものの、乾燥天候による米国産冬小麦への影響懸念、ポーランド等のウクライナ産に対する輸入規制等から 6 ドル/bu 台半ばから後半で推移。4 月半ば過ぎ以降、乾燥天候の米国プレーンズでの降雨予報等から値を下げ、5 月初旬に 5 ドル/bu 台前半に低下。5 月上旬以降、低調な輸出需要も、黒海経由でのウクライナ産穀物の輸出期間を巡る合意の不透明感や、中国河南省の豪雨被害、ウクライナのダム決壊から、6 ドル/トン台前半から半ばで推移。6 月半ば以降、米国産冬小麦生産地での降雨による収穫遅延、EU の乾燥天候による減産懸念を受け、6 月下旬に 7 ドル/bu 台前半に値をあげた。その後、北半球における冬小麦の収穫進展等から、6 月末に 6 ドル/bu 台前半に値を下げた。

【7 月～10 月】

7 月中旬に、黒海経由のウクライナ産穀物輸出合意からのロシアの離脱、ロシアによるウクライナの港湾への攻撃等から 7 ドル/bu 台半ばに値を上げたものの、米国の春小麦の生産見通しが予想を上回ったこと、ロシア産小麦の輸出量の増加や米国産への低調な輸出需要等から 9 月上旬にかけ 5 ドル/bu 台半ばに値を下げた。9 月中旬に豪州の降雨不足や、アルゼンチンの乾燥天候による生産減少予測等から、6 ドル/bu 前後に値を上げたものの、ドル高や、9 月末の米国農務省の市場予測を上回る米国産の生産予測等から、9 月末に 5 ドル/bu 台半ばに値を下げた。

10 月に入り、黒海からの輸出懸念等から 5 ドル/bu 台後半に値を上げたものの、10 月中旬にかけ、米国産の低調な輸出需要から 5 ドル/bu 台半ばに値を下げた。その後、米国産の輸出需要の改善やインドの供給懸念等から 5 ドル/bu 台後半に値を上げたものの、米国産冬小麦生産地での降雨予報や米国産冬小麦の良好な作柄から値を下げ、10 月末現在、5 ドル/bu 台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.77 ドル/bu （前年同時期の価格：6.81 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 11 月第 1 週末のセツルメント価格】

（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)）

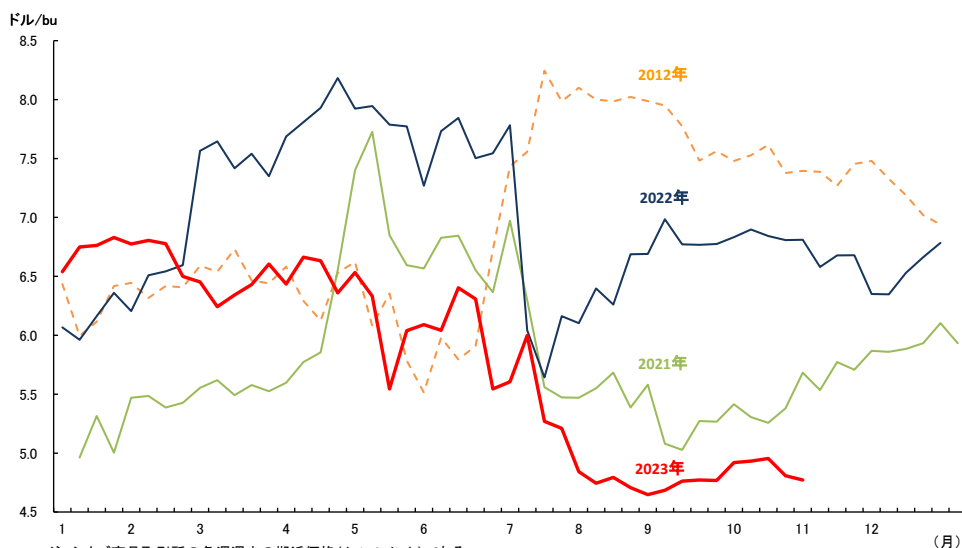
【1 月～6 月】

1 月中旬から 2 月中旬にかけ、米国産の輸出需要増、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や、ブラジルの冬とうもろこしの作付け遅れ等から 6 ドル/bu 台後半で推移。2 月下旬以降、低調な輸出需要から値を下げ、3 月上旬に 6 ドル/bu 台前半に低下したものの、3 月中旬以降、中国への輸出需要や、黒海経由のウクライナ産穀物輸出を巡る合意の再延長をめぐる不透明感、ポーランド等のウクライナ産穀物に対する輸入規制等から値を上げ、4 月半ばに 6 ドル/bu 台後半に上昇。4 月半ば以降、黒海経由でのウクライナ産穀物輸出の期間を巡る合意の不透明感から一時値を上げたものの、ブラジル産や米国産の豊作見通し、低調な輸出需要から値を下げ、5 月中旬に 5 ドル/bu 台半ばに低下。5 月下旬以降、米国中西部での乾燥懸念等から値を上げ、6 月下旬に 6 ドル/bu 台後半に上昇したものの、米国中西部の降雨予報による作柄改善期待、米国の市場予想を上回る米国の作付面積予測から値を下げ、6 月末に、5 ドル/bu 台半ばに値を下げた。

【7 月～10 月】

7 月中旬に、米国中西部での乾燥懸念やドル安等から 6 ドル/bu 前後まで上昇したものの、米国中西部で受粉期に適した天候見通しや降雨予報による作柄の改善期待、ブラジル産冬とうもろこしの収穫の進展、米国産への低調な輸出需要から、8 月末に 4 ドル bu 台半ばに値を下げた。9 月以降、米国主要産地での高温乾燥による作柄懸念があった一方、収穫の進展や米国農務省需給報告で米国産の生産量が上方修正されたこと等から 4 ドル/bu 台半ばで推移。その後、降雨による収穫遅延等から、9 月末に、4 ドル/bu 台後半に値を上げた。

10 月に入り、黒海からの輸出懸念等から 4 ドル/bu 台後半まで値を上げた。その後、10 月中旬にかけ、米国の収穫進展を受け 4 ドル/bu 台後半で推移し、10 月の米国農務省需給報告での米国産の生産量の下方修正、米国の輸出需要の改善等から 5 ドル/bu 前後に値を上げた。その後、米国の順調な収穫の進展を受けて値を下げ、10 月末現在、4 ドル/bu 台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

●コメ：598 ドル/トン（前年同時期の価格：440 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2023 年 11 月第 1 水曜日の FOB 価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

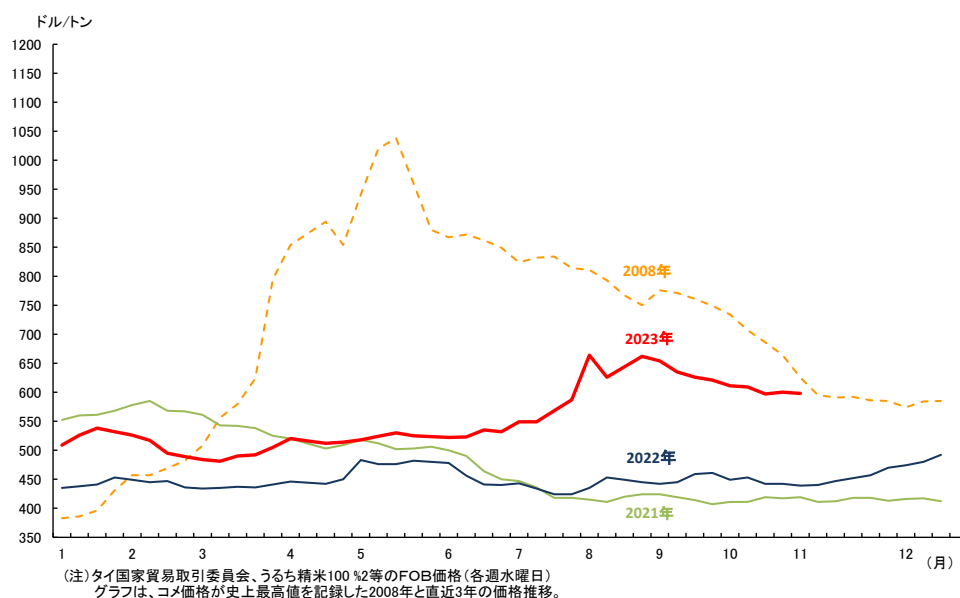
【1 月～6 月】

1 月に入り、パーツ高や、政府備蓄不足回復のためのインドネシアからの需要増や、中東諸国からの需要増により 1 月中旬に 530 ドル/トン台後半に値を上げたものの、タイ国内での新穀(乾季米)の流通による供給増加見通しや、パーツ安、低調な海外需要等から、3 月上旬に 480 ドル/トン台前半まで値を下げた。3 月中旬以降は、マレーシアやフィリピン等のアセアン諸国及び西アフリカ諸国の需要、インドネシア政府による買付増加見込み等から、4 月上旬に 520 ドル/トン台前後まで値を上げた。4 月中旬から 5 月上旬にかけて、タイが旧正月を迎えたことによる低調な取引等から、510 ドル/トン台で推移。その後、アセアン・アフリカ諸国、特にインドネシア、フィリピン、南アフリカからの需要継続等から、5 月中旬に 530 ドル/トン前後まで値を上げたものの、5 月下旬から 6 月中旬にかけ需要が軟化し、520 ドル/トン台で推移。その後、インドネシアからの需要の継続や、ベトナム産に比べ安価となったタイ産米へのイラク、フィリピンからの需要の増加、エルニーニョ現象で降雨不足が懸念される東南アジアの 2023/24 年度の生産見通しに対する懸念等から、6 月下旬に、530 ドル/トン台前半に値を上げた。

【7 月～10 月】

7 月以降、主要アジア諸国からの需要の継続に加え、インドの非バスマティ米の精米の輸出禁止措置(7 月 20 日～)やインドの輸出禁止措置を受けたタイ産米等への需要の集中から一時 660 ドル/トン台半ばまで急上昇した。その後、価格高騰による需要軟化等から一時 620 ドル/トン台後半に値を下げたものの、インドのパーボイルド米への輸出税賦課(8 月 25 日～翌年 3 月 31 日)や、バスマティ米(精米)への最低輸出価格導入(8 月 27 日～)、ベトナム産米より安価なタイ産米へのアセアン諸国(特にインドネシア)等の需要拡大により、8 月下旬に 660 ドル/トン台前半に値を上げた。9 月以降、インドの輸出規制強化に加え、ミャンマーの暫定的輸出規制(9 月 1 日～)を受けたタイ産米等への需要集中による価格高騰で需要が停滞したこと等から 9 月下旬現在、620 ドル/トン台前半に値を下げた。

10 月に入り、インド等の輸出規制でタイ米への需要が集中し価格が高騰したことによる需要停滞に加え、新穀の市場への流入やパーツ安等から一時的に 590 ドル/トン台後半に値を下げたものの、フィリピン等からの新規需要や旧穀の供給が逼迫してきたこと等から値を上げ、10 月下旬現在、600 ドル/トン前後で推移。



● 大 豆 : 13.28 ドル/bu (前年同時期の価格 : 14.52 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 11 月第 1 週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日))

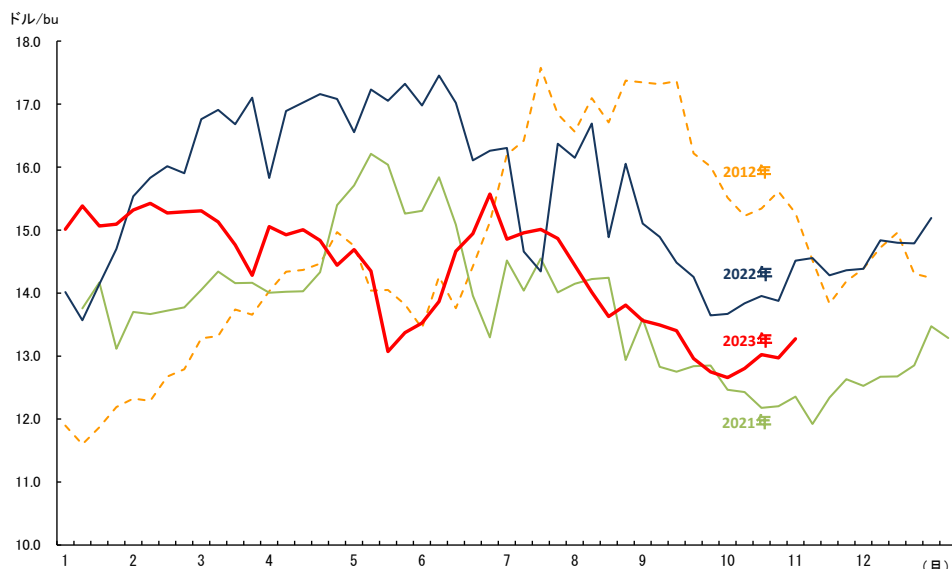
【1 月～6 月】

1 月中旬から 3 月上旬にかけて、ブラジルで豊作予測も、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念等から 14 ドル/bu 台後半から 15 ドル/bu 台半ばで推移。3 月中旬以降、ブラジルの豊作見通しと米国産の輸出減少懸念等から、3 月下旬には 14 ドル/bu 台前半に値を下げた。3 月末から 4 月中旬にかけ、アルゼンチンにおける干ばつによる供給減少予測や、米国の作付意向面積の伸び悩み、中国の需要増等から 14 ドル/bu 台後半から 15 ドル/bu 台前半で推移。4 月下旬以降、黒海経由のウクライナ産穀物輸出の期間を巡る合意の不透明感はあったものの、米国産の作付けの進展と豊作見通しや、ブラジルの豊作見通し、ブラジル産との輸出競争の激化等から、5 月末に、12 ドル/bu 台後半に値を下げた。6 月初旬から 6 月末にかけ、米国中西部での乾燥懸念、米国の作付面積予測が市場予測を下回ったことから、6 月末に 15 ドル/bu 台半ばに値を上げた。

【7 月～10 月】

7 月上旬に降雨予報による作柄改善期待があった一方、7 月中旬の米国中西部で続く乾燥への懸念等から 7 月下旬にかけ 15 ドル/bu 台半ばで推移。その後、8 月半ばにかけて、天候改善見通しによる作柄改善予想等から 13 ドル/bu 台前半に値を下げたものの、8 月半ば以降、高温乾燥による生育への影響懸念等から 8 月末に 13 ドル/bu 半ばに値を上げた。9 月に入り、米国農務省需給報告で米国産の生産量が予想を上回ったことや、ブラジル産の豊作、米国農務省在庫報告で在庫量が予想を上回ったこと等から 9 月末に、12 ドル/bu 台後半に値を下げた。

10 月に入り、米国の収穫進展を受け 12 ドル/bu 台後半までに値を下げたものの、10 月の米国農務省需給報告で米国産の生産量が下方修正されたこと、米国の中国向け輸出成約が市場予想を上回ったこと等から 13 ドル/bu 台前半に値を上げた。その後、米国産の収穫進展や南米の降雨から値を下げ、10 月末現在、12 ドル/bu 台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
108.99	106.78	109.08	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	141.21
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
144.77	147.67	149.53								

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行: 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
45.01	52.79	65.79	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	42.73
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
49.49	52.48	51.30								

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

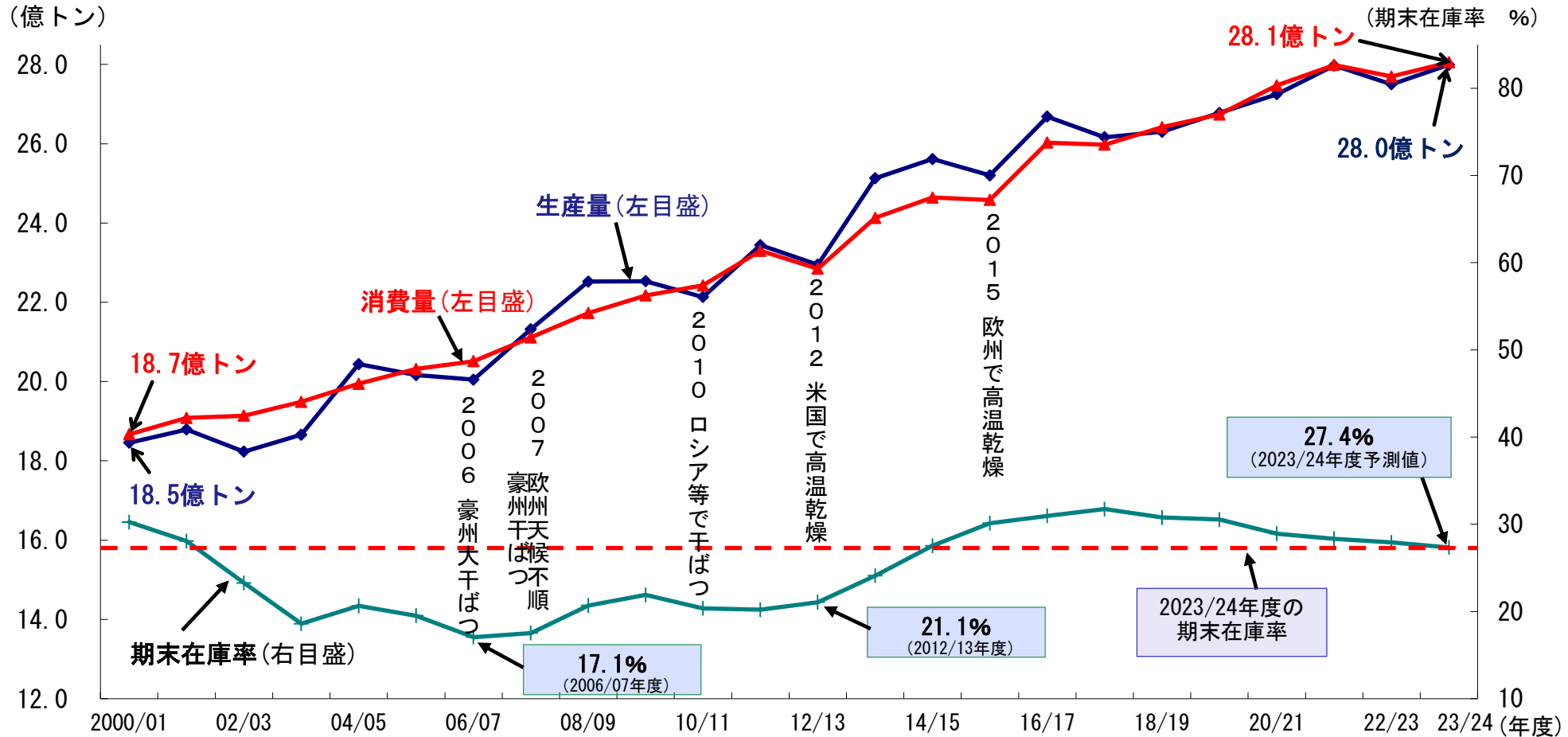
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
57.03	39.40	74.66	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.52	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.27	76.03
8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
81.32	89.43	85.84								

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和5年10月, 124頁
但し、2023年10月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2023/24年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2023/24年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、27.4%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 2023)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。